

2022 年度事業計画

【スローガン】

燕市へ来られたお客様に感動と満足を与え、一人でも多くの燕市ファンを増やす
新たな観光素材を探すことを使命とした観光協会を目指す

【基本方針】

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| (1) 燕市における交流人口の拡大 | |
| (2) 大河津分水通水 100 周年記念事業の推進 | |
| (3) CS(※)・コンプライアンスの遵守 | |
| (4) 協会業務への職員全員参画 | (※)CS=Customer Satisfaction 顧客満足 |

1. 観光イベント開催事業

22,985,000 円

コロナ禍の中で、国や県、燕市から提示される、イベント実施における基本方針や必要な対策提示に則り、開催場所管理者との連携を密にして、安全管理には最大限の配慮と工夫を講じた上で、可能な範囲で実施することを基本方針とします。ホスピタリティ、PRの向上を図り、関連団体や企業と連携した持続可能な事業や効果的な誘客を実施します。

(1) つばめ桜まつり (事業費 19,128,000 円)

「春は桜で燕を結び、地域で楽しみ、地域でつくる様々なイベントやPR活動をとおり、燕の良さを広く伝え、受け継ぐ。」を事業目的に、期間中の来訪者目標を累計10,000人(昨年実績6,300人)とし、おいらん道中を開催した2019年度実績(70,000人)は大きく下回るものの、コロナ禍に対応したオンラインでの観光やPRにも取り組みます。

【2022 つばめ桜まつり実施期間】

4月 4日(月)～17日(日)

【期間中の催し】

- ・夜桜ライトアップ：大河津分水桜並木、JR分水駅
- ・分水おいらん道中写真展（信濃川大河津資料館はじめ市内各所、一部市外）
- ・ARさくらスタンプラリー（市内公園など約20ヵ所予定、一部市外）
- ・分水おいらん道中-大河津分水通水100周年記念- 4月17日(日)

新型コロナウイルス感染症対策や入場管理のため、分水総合体育館を会場に3部制全席指定にて開催します。大河津分水通水100周年記念とし、床面スクリーンによる大河津分水やおいらん道中の解説や大型スクリーンによる桜の投影など、屋内開催ならではの演出の予定です。

(2) 酒呑童子行列

(事業費 3,857,000 円)

「郷土に残る魅力的な鬼の伝説を基に、国上山周辺の観光資源を、地域の力でつくり楽しむイベントやPR活動をとoshi、広く市内外に情報発信する」を事業目的とし、コロナ感染症の状況を踏まえ安全安心な形態を第一に、実行委員、運営委員及びリニューアルされるメインイベント会場の「道の駅国上」の新たな指定管理者と連携し、参加型観光イベントとして多くの方々により一層楽しんでいただけるよう実施します。

期間中の来場者目標は6,000人(2020年実績5,000人)とし、今年も続いている鬼や妖怪ブームにあわせ、全国各地の妖怪たちと様々な形態で連携し、情報発信のさらなる向上に努めます。

【おにフェス】

・9月上旬に市内2カ所で開催予定

(2020年実施 9月11日吉田ふれあい広場、9月12日燕市交通公園&こどもの森)

【第17回酒呑童子行列実施期間】

・9月25日(日)道の駅国上にて開催予定

(2020年実施 9月27日道の駅国上)

※7月4日運営委員会、7月11日実行委員会(予定)にて詳細スケジュール決定

2. 受託事業

36,650,960 円

(1) つばめ産業観光推進事業

(事業費：9,120,880 円)

2022 年は、産業観光の更なる充実を目指すことで「交流人口」だけでなく「関係人口」の増加を目指し、オンラインツアーの造成などを検討し、燕の産業文化を積極的に発信いたします。また、教育旅行(修学旅行)の受け入れが順調ですが、同時にポストコロナ禍を見据え、一般団体、インバウンドの受け入れ体制の充足を視野に入れて、時代のニーズに併せた産業観光の基盤を整えていきます。

2022 年度の団体受入目標は、コロナ禍で需要が増加した修学旅行は感染症流行前の状況に戻ることが想定されるため、修学旅行の受入目標を3,600人(2020年度3,302人)、全体ではコロナ発生当初の2020年度実績を踏まえて6,000人(2020年度5,194人)とし、産業観光の協力企業の新規開拓や誘客につながる情報を逐次発信し、金属加工産業文化を起点とした魅力をPRします。

(2) つばめ情報発信戦略事業

(事業費：528,080 円)

昨年度より増加している、ウェブサイト・SNSの閲覧数のさらなる増加を図るため、

データ分析やマーケティングを行い、閲覧数の前年比120%を目標とします。また、情報発信のための観光素材（写真・動画）収集のためデジタル一眼レフカメラやドローンの導入、業務用携帯などツールが充実したことから、職員への研修等を行い、一層活用してまいります。更に、ウェブサイトリニューアルより5年が経過することから、2023年度以降の再リニューアルを検討し、準備を実施します。

（3）燕市産業史料館企画運営事業

（事業費：27,002,000円）

燕のものづくりの魅力を全国に情報発信することで、産地産業の振興に寄与し、文化と人の交流拠点及び産業観光の拠点となるような活動に努めます。

2022年は当地の産業に大きな恩恵をもたらした大河津分水路の通水100年を迎える節目の年となるため、この歴史的な出来事を燕市の観光事業全体に絡め魅力向上と情報発信に努め、入館者目標を18,000人（2021年度見込み17,000人）とします。また体験工房館スタッフが2022年4月より当協会所属となり、燕市とより一体感を高めた運営を行います。

1. 企画展の充実により入館者の増加をした企画展を実施します。

- ・燕市内だけにとどまらず様々な地域・分野も含めた企画を行い、周知していくことで新たな来館者増に繋げてまいります。

2. 燕の産業体験ができる施設として、情報発信を強化いたします。

- ・好調な修学旅行団体、また産業体験などを燕市と連携し、更なる情報発信に努め、来館者の増加を図ります。

【企画展】

・燕の百年展	4月 8日	～	5月 15日
・第45回 燕手仕事展	6月 3日	～	7月 10日
・百年物語展	8月 5日	～	9月 11日
・松浦靖世界のスプーン展第7章	10月 7日	～	11月 13日
・クブルムの花嫁 原画展	2月 3日	～	3月 12日

3. 観光プロモーション事業

1,528,000円

紙媒体から協会ホームページ、各種SNSを中心とした情報発信に移行しつつありますが、さらにDX（※）を推進すると共に新たな観光素材の発掘を地域の皆様と一緒にまいります。また、新型コロナウイルス感染症の状況次第となりますが、インバウンドの受入れを見据えた準備も進めます。（※）DX=Digital Transformation データやデジタル技術の活用による変革全般

4. 観光資源活用事業

644, 000 円

(1) 他団体支援事業

(事業費：634, 000 円)

- ・地域の歴史ある伝統行事「萬燈」や「吉田天満宮」の広報ポスター制作の支援
- ・新潟県指定天然記念物である「八王寺の大白藤」の藤まつり開催に伴う、来訪客へのおもてなし事業の支援
- ・国上山良寛史跡ボランティアガイド「はちの子会」への周遊ガイド実施依頼
- ・国上山トレッキングガイド「里山花とみどりの会」への年度5回のエコトレッキングツアーガイド実施依頼

(2) 国上山山開き事業

(事業費：10, 000 円)

国上山の山開きを山野草の開花シーズンに合わせて実施します。

- ・2023年3月19日(日) 予定

5. 燕市観光協会運営費

30, 858, 040 円

日々変化するコロナ感染症対策に、昨年度の事業計画として掲げた危機管理マニュアルの一環である、感染症対策フローなどを活用するとともに、その他災害対策も含めた訓練及び職員への意識付けをおこなうことで、来訪された方々が安心安全に燕市をお楽しみいただけるよう努力します。

昨年より要員減となった中で、増加傾向にある残業を軽減すべく、業務・組織の見直しを実施します。あわせ、DXを推進するとともに、限られた要員でも対応できるよう各種ツールを共有し、職員間だけでなく各種関連団体との連携も密に行います。

【参考】

協会が連携している団体組織等として以下の通りです

1. 燕・弥彦広域観光連携会議 (燕市・弥彦村)
2. 県央地域観光振興会議 (県振興局・JR・周辺市町村・経営大学)
3. 東北観光推進機構 (東北6県・新潟県・JR他)
4. 新潟県MICE推進連絡会議 (新潟県他)
5. 中越文化・観光産業支援機構 (長岡市他)
6. 大学と地域の協働による観光活性化モデル事業協議会
(経営大学・周辺市町村・新潟県振興局)
7. 新潟県観光協会主催の県央エリアミーティング
(県観光協会・燕市・弥彦村・三条市・加茂市・田上町)

収支予算書

2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会費収入			
会費収入	550,000	0	550,000
②事業収入			
事業収入	39,838,000	17,107,000	22,731,000
参加費収入	40,000	40,000	0
グッズ収入	250,000	250,000	0
広告料（協賛金）収入	1,240,000	1,400,000	△ 160,000
協力金収入	675,000	0	675,000
出店料収入	0	0	0
事業収入計	42,043,000	18,797,000	23,246,000
③補助金等収入			0
補助金収入（地）	50,072,000	39,930,000	10,142,000
④負担金収入			0
負担金収入	0	0	0
⑤寄付金収入			0
募金収入	0	0	0
⑥雑収入			0
受取利息収入	1,000	1,000	0
雑収入	0	100,000	△ 100,000
雑収入計	1,000	101,000	△ 100,000
事業活動収入計	92,666,000	58,828,000	33,838,000
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
設営費支出	6,400,000	3,523,912	2,876,088
修繕費支出	950,000	500,000	450,000
行事費支出	5,542,000	3,147,000	2,395,000
宣伝費支出	9,038,000	2,895,000	6,143,000
報償費支出	210,000	160,000	50,000
給料手当支出	16,768,000	9,391,000	7,377,000
福利厚生費支出	2,872,000	1,935,000	937,000
旅費交通費支出	378,500	400,000	△ 21,500
通信運搬費支出	667,000	694,400	△ 27,400
消耗什器備品費支出	150,000	0	150,000
消耗品費支出	13,799,204	764,600	13,034,604
印刷製本費支出	2,501,000	2,801,000	△ 300,000
光熱水料費支出	30,000	50,000	△ 20,000
租税公課支出	0	0	0
委託費支出	1,435,376	1,776,000	△ 340,624
保険料費支出	570,000	662,000	△ 92,000
食糧費支出	230,000	80,000	150,000

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
会議費支出	30,000	30,000	0
手数料支出	201,880	421,440	△ 219,560
雑支出	35,000	26,088	8,912
返納見込支出	0	0	0
事業費支出計	61,807,960	29,257,440	32,550,520
②管理費支出			
給料手当支出	8,225,000	19,505,000	△ 11,280,000
福利厚生費支出	1,572,000	3,789,000	△ 2,217,000
会議費支出	8,040	0	8,040
交際費支出	30,000	10,000	20,000
旅費交通費支出	80,000	10,000	70,000
通信運搬費支出	600,000	450,000	150,000
消耗什器備品費支出	38,000	0	38,000
消耗品費支出	630,000	600,000	30,000
燃料費支出	200,000	129,560	70,440
賃借料支出	2,532,000	2,155,000	377,000
減価償却費支出	1,105,000	740,000	365,000
保険料支出	400,000	300,000	100,000
諸謝金支出	10,000	0	10,000
租税公課支出	2,272,000	860,000	1,412,000
負担金支出(各会費)	660,000	647,000	13,000
負担金支出(出向経費)	11,918,000	0	11,918,000
手数料支出	473,000	320,000	153,000
委託費支出	50,000	30,000	20,000
雑費	55,000	25,000	30,000
管理費支出計	30,858,040	29,570,560	1,287,480
事業活動支出計	92,666,000	58,828,000	33,838,000
事業活動収支差額	0	0	0
Ⅱ 投資活動収支の部			0
1. 投資活動収入			0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ 財務活動収支の部			0
1. 財務活動収入			0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ 予備費支出	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
他会計振替	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0